

# 花みずきだより

## 2013 年 秋号

今年も残すところ、2ヶ月となりました。今年3通目の花みずき便りです。

花みずき会館でお葬式をしていただいた方、私が亡くなったなら、花みずきさんでお世話になりたいわと、会員になってくださっている方、いつも私たちがお世話になっていてる方々に、花みずき便りをお送りしていますが、その数はなんと、千通。

なかには、止めてほしいと申し出てこられる方もいらっしゃいますが、ほとんどの方が、いつも楽しみに読んでくださっています。(と、信じています。)

わざわざ、お引越し先の住所をお届けくださって、「これからは、こちらに郵送して。」と、ありがとうございます。

花みずき便りを読んでくださっている縁のある方々に、もつともつと、お心に伝わるような新聞にしていきたいと思います。どうぞ、皆様も、お便りをお寄せいただいで、花みずき便りを育てていただければ、ありがとうございます。

お葬儀を執り行うのあたり、式次の打ち合わせから案内・進行をし、様々な「ご遺族の想い」を形にしていく司会者。今回は、女性司会者のア・ピアントの島田さんからお話です。

葬儀司会者として仕事を始めた頃は、故人様とご遺族様が癒されるように、満足していただけるようにと気負っていた自分がいました。それから20年近い歳月が流れ、多くの方の葬儀に携わりましたが、実際は毎回のように私自身が教えられ、勇気を頂けることの連続でした。

その中でも特に印象深い忘れることのできない葬儀があります。

### おひとりさまのお葬式

故人様は、70代半ばの生涯独身だった女性です。親兄弟はすでに亡くなり、唯一の身内である従姉ご夫婦が葬儀をあげられました。生前から頼まれていたそうです。最初の打ち合わせでは「お参りの方はほとんど来ないので、椅子ももつと減らして下さい。私たち家族と友人数人だけです。」と仰っておられました。通夜が始まると200名以上のお参りの方が来られ、そしてどの方も故人様とゆかりの深い方々でした。

### シクラメン

～真冬に灯るかがり火～

だんだんと肌寒くなってきて、冬が目の前にせまってきました。冬は、四季の中でも色鮮やかな花が少ないといわれていますが、その少ない花の中の一つにシクラメンがあります。

色とりどりの花があり、最近では香りの良い品種もあるシクラメンですが、その和名に「篝火花(かがりびばな)」というのがあるのをご存知ですか？この花を見た日本の貴婦人が「かがり火のような花ですね」と、言った事からこの名がついたそうです。花言葉には、「絆」や「愛情」といった温かいものがあります。

花みずき会館で、毎年行われている内覧会(今年は、12月8日)でも大人気のシクラメンの販売。「今までどれだけのお家にかがり火が灯ったのかな？」と考えながらこの文章を書いています。

キャリアウーマンだった故人様の元勤務先の同僚・後輩の方々、ボランティア活動の仲間、支援されていたオーケストラの方々、旅行仲間、最後の入院先の病院スタッフの方々まで来られました。故人様が、どの場面でも知り合った方々もすべて大切にされていたことがよくわかります。

そして通夜終了後、バイオリンやチェロの生演奏により故人様の好きだった映画音楽が奏でられ、ミニコンサートのようになりました。ほとんどの方が最後まで残られました。とても感動的でした。

従姉ご夫婦も素晴らしい方で、沢山のお参りに驚きながらも大変喜ばれ、当日の告別式の後の精進料理を皆さんにも食べてもらいたいと、葬儀に参列された皆さんも食事をとられました。様々な組織の方の交流会のようになり、故人様を通じてまた新しいご縁が広がり、従姉ご夫婦も感激されていました。なんてさわやかな葬儀だったことか。

故人様は、正義感が強く竹を割ったようなはつきりとした方で、自分のことよりもまわりの方のことを考え、どなたにも分け隔てなく温かく接する方だったそうです。最後の入院先でも人気が、病院のスタッフの方から逆に頼られ、悩み相談室のようになっておられました。楽しいことが大好きで、海外旅行や飲み会、コンサートボランティアなど定年後も大忙しでした。

このご葬儀は私にとって大きな転機となる葬儀になりました。当時の私は離婚してすぐ父を亡くし、兄弟もなく子供もなく家族は母と猫だけ。かつての友人たちは子育ての真只中、仕事ばかりの毎日の中「私の葬儀は誰があげてくれるんだろう？」と孤独を感じる日々でした。

そんな日々の中で出会ったこの葬儀です。ハッと目から鱗が落ちる思いでした。故人様は家族がいなくても沢山の出会いの中で温かい人間関係を築かれたのです。「家族がいなくても、子供がいなくても、独身だから幸せじゃないなんて...それは、あなた言い訳よ!!」と、故人様にしかられたような気がしました。『幸せと喜びは状況ではなく自分で作り出していくもの』と、教えて下さった故人様。本当にありがとうございました。

人生に行き詰まり立ち止まってしまった時に、必ずこんな目の覚めるような気づきを頂ける。そんな尊い仕事に携わっている事に心から感謝の思いでいっぱいです。



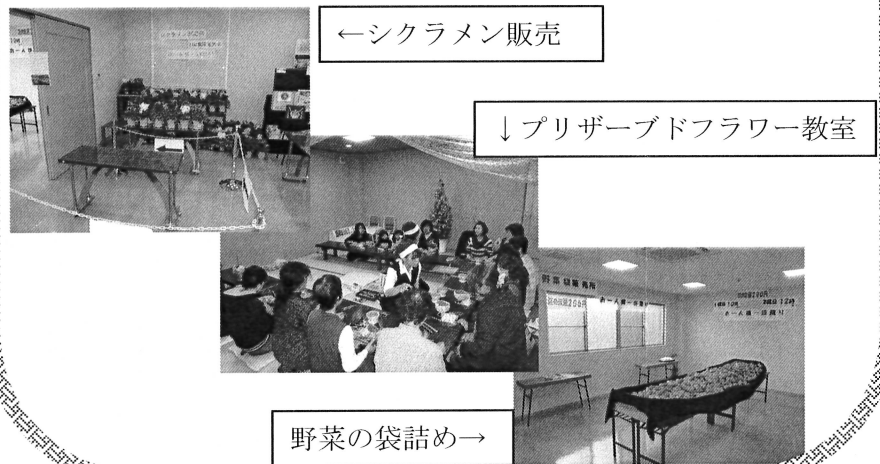
# イベント情報

9 月末に行いました花みずき会館フリーマーケットには、たくさんの方にお越し頂き誠にありがとうございました。今年のフリーマーケットはこれで終了となりますが、来年はさらに皆様に楽しんで頂けるよう努力していきます。

今回のイベントは

## 12月8日(日) 第8回内覧会

恒例のシクラメン・野菜の特価販売やフラワーアレンジメント教室の他、お葬式や仏事に関する疑問を気軽に相談頂けるコーナーなどを用意して、皆様のお越しを心よりお待ちしております。どうぞお誘いあわせの上、ご来場下さい。



# 葬儀相談会



10月15日に淡路郵便局、10月25日には東淀川郵便局で花みずき会館スタッフによる、『葬儀相談会』を行いました。親しみのある郵便局での相談会とあって「郵便局に来たついでに少し聞きたいのだけど。」と、普段聞きにくいお布施やお香典に関する質問をされる方や、「終活の一環として、一つ一つ詳しく説明してほしい。」という、腰を据えての相談をされる方まで多数の方にお越しを頂きました。

お越しいただきました方々には、貴重なお時間を使って頂き、誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。



淡路郵便局での様子

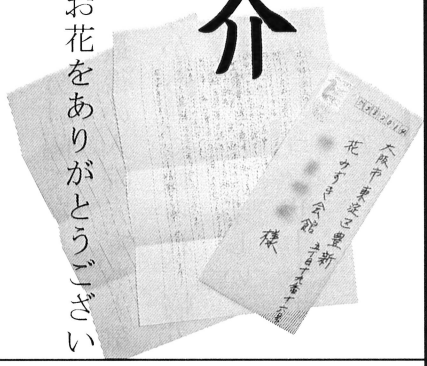


11月には、15日に井高野郵便局、25日に菅原七郵便局で出張『葬儀相談会』を行う予定にしております。「聞きたい事はあるけど、会館まで行く暇が中々とれないの。」という方も、この機会にどうぞお越し下さい。

尚、出張葬儀相談会で相談を下さった方には粗品を、花みずき会館に入会された方には景品を進呈致します。

皆様のご来場お待ちしております。

# お便り紹介



先日は、主人の一周忌にお花をありがとうございました。昨年十月四日に主人が亡くなって丸一年、早いなと写真の前で思っています。その時は本当に、担当の方やスタッフの方々には色々とお世話になり、心からお礼申し上げます。

今振り返ると、花みずき会館でさせて頂いて良かったと思います。それから「湯灌の儀」の意味も知りませんでした。私や娘夫婦、孫達には初めての経験で良い勉強をさせて頂きました。この経験や祖父のことを、孫達が結婚しても忘れないでほしいと思います。私自身、主人の「湯灌」をさせて頂いて良かったと思えました。

スタッフの皆様、本当にありがとうございました。これからも花みずきだよりや、イベント情報など楽しみにしています。

東淀川区 N様より

# 見えないモノ

最近、生後もない我が子が、部屋の一点をじつと見つめます。そして急に笑顔になって手を振ったりします。「座敷童でもいるのかな？」と、家族と話をしている、ふと童謡詩人の金子みすゞさんの詩を思い出しました。

昼のお星は眼にみえぬ  
見えぬけれどもあるんだよ  
見えぬものでもあるんだよ  
日中明るい時に星は見えないけれど、無くなった訳ではなくてそこにある。『眼にみえる物だけがすべてではないんだよ』という当たり前だけど、なかなか気付くことが出来ないことを書かれた詩です。

初めてこの詩に目を通した時、「なるほどなあ... どんな人でも、沢山の人の助けられて今があるけれど、他の人から見ても分からないものなあ。」と、私に今まで関わってくれた方達に、改めて感謝したのを覚えています。

# 掲載原稿募集

引き続き皆様の葬儀体験や故人様へのメッセージ等を募集しております。

- ・ 大切な方に伝えたいありがたい言葉
- ・ 喪家となって大変だったこと
- ・ お葬儀を通じて感じた事、気づいた事 等

50文字〜1600文字以内で花みずき会館までご送付下さい。お送りいただいた方には、心ばかりのお礼を差し上げます。※掲載時には〇〇区 Aさん〇〇のようにならざるよう記しますが、匿名希望の方はその旨も明記して下さい。

尚、ご送付頂いた原稿はお返し致しかねますのでコピーを送付して下さい。

送付先  
〒533-0014  
大阪市東淀川区豊新5丁目19番16号  
花みずき会館 花みずきだより係

お問い合わせは、0120-36-8622

花みずき会館まで  
最後までお読み頂き、ありがとうございます。  
今後も皆様に役立つ情報を提供するために、ご意見や感想をお待ちしております。 スタッフ一同